

令和 6 年 6 月 12 日現在

機関番号：32638

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K18366

研究課題名（和文）ベルギー・オランダ語圏のテキストにおけるポリグロシアの日本語翻訳に関する研究

研究課題名（英文）Studies on the Japanese Translations of the Polyglossia in Texts Written by Dutch Speakers in Belgium

研究代表者

井内 千紗（INOUCHI, Chisa）

拓殖大学・商学部・准教授

研究者番号：30700132

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 4,100,000円

研究成果の概要（和文）：ベルギー北部・オランダ語圏の文学作品を対象に、テキスト内の多言語使用の形態やそれが発現するコンテキストを整理した。さらに、多言語使用を日本語に翻訳する際のストラテジーについて、すでに日本語で単行本として翻訳出版されている作品10点を対象に、テキスト分析・考察を行った。ベルギーのオランダ語文学作品においては、外国語の中ではフランス語の使用が最も頻繁で、それが使用されるコンテキストは作品が発表された時代の言語事情や著者の言語観が反映されること、また、翻訳ストラテジーに関しては、単一言語でポリグロシアを再表現するにあたっての課題を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は従来話しことばを対象に進められてきたポリグロシアを、文学作品のテキストを対象とし、学術的な見地からポリグロシアの翻訳実践を推進するという理論と実践を融合させた研究である。また、二言語間の翻訳を超越した、グローバル化・多様性の時代に即した翻訳ストラテジーを提示するものであり、それによりベルギーに留まらず、複雑な言語事情を有する国家・地域で創出される文学作品の翻訳推進に寄与するものでもある。さらに、日本ではこれまでほとんど注目されてこなかったオランダ語話者の視点からみたベルギーの言語事情や言語観を、文学作品から明らかにするという点において、日本のベルギー研究に新たな局面を提示している。

研究成果の概要（英文）：Taking literary works from the Dutch-speaking region of Belgium as the object of study, the forms of multilingual use in the texts and the contexts in which they appear were sorted out. Furthermore, textual analysis and consideration of strategies for translating multilingual use into Japanese were conducted. For the analysis, 10 works that have already been translated into Japanese and published as monographs were chosen. As for polyglossia, the use of French is the most frequent among foreign languages in literary works written by Dutch speakers in Belgium. This reflects the linguistic situation of the period in which the works were published and the author's view of language at the time. The study also highlighted the challenges of re-presenting polyglossia in a single language (i.e. Japanese) in terms of translation strategies.

研究分野：地域研究

キーワード：ベルギー オランダ語 翻訳 ポリグロシア

1. 研究開始当初の背景

グローバル化が進み、多様性を尊重する社会が世界各地で形成される中、複数の言語を使用するポリグロシアが、日常生活の話し言葉にとどまらず、映画・文学・舞台芸術等の作品において、一つの表現手法として取り入れられている。このようなポリグロシアを日本語の単一言語に翻訳する過程で、どのような戦略があるのか、方法論は未だ確立されておらず、翻訳実践を妨げる一つの要因となっている。このような状況をふまえ、本研究は、ポリグロシアの翻訳戦略を考察し、学術的な観点からポリグロシアの日本語翻訳に関する方法論を確立し、言語的多様性を有するテキストの翻訳実践に寄与することを目指した。

研究者は2010年以来、翻訳を通じてフランダースの文芸作品を日本に紹介する活動にも取り組んでいる。その過程で、日本では蘭学を軸に、蘭和翻訳に関する研究の長い歴史があるが、現代のテキストに目を向けると、言語学の分野も含め、研究対象として看過されている点に疑問を抱いた。蘭和翻訳は、現代のテキストであってもグローバル社会における異文化理解の促進という観点から一定の社会的役割を果たすものであるが、科学的な分析が欠落している。特に、ベルギー・オランダ語圏は異なる言語や文化の影響を受けて芸術文化を発展させた歴史を有しており、その影響から、ハイブリッド性を特徴とする作品が数多く見られる。しかし、周辺諸国と比べて日本語翻訳の数が極めて少ない。日常的に様々な言語に接触する言語環境が、作品のなかで複数の言語を用いて表現されるが、そのような言語事情の影響で頻出するポリグロシアこそが、日本語への翻訳を阻む一つの要因となっていることが推察される。ポリグロシアは、ベルギーという特殊な言語環境に限らず、ポストコロニアリズムや移民、地域主義など、様々な背景からテキストに取り入れられている。しかし、日本語に翻訳する際の戦略に関しては方法論が確立されておらず、学術的な見地からの分析も進められていないため、課題解決の手がかりが明らかとなっていない。以上の背景から、本研究を着想するに至った。

2. 研究の目的

本研究は、ベルギー・オランダ語圏のテキストを事例に、多言語の使い分けを意味するポリグロシアの翻訳戦略を考察し、学術的な見地からポリグロシアの日本語翻訳に関する方法論を確立し、言語的多様性を有するテキストの翻訳実践に寄与することを目指すものである。

3. 研究の方法

上記目的を達成するため、本研究では「ポリグロシアに関する調査・分析」、「蘭和翻訳の通時的展開に関する調査」および「翻訳戦略の分析」と3つの研究課題に分けてそれぞれ調査・分析を行った。令和3年度から5年度にかけての各課題へのアプローチは以下のとおりである。

【課題1】ポリグロシアに関する調査・分析

文芸作品に見られるポリグロシアの理論について世界文学論、翻訳研究に加え、社会言語学の観点から文献調査を実施した。また、ベルギーの言語事情と文学の関係を探るため、複数の言語で活動する作家の事例研究も行なった。調査にあたっては、ベルギー・オランダ語圏（フランダース地域）の文学の専門家や関係機関の協力も得て、ベルギー・オランダ語圏の作品に見られるポリグロシアの実態や傾向について情報収集するとともに、研究課題についての助言も得た。

【課題2】蘭和翻訳の通時的展開に関する調査

洋学および蘭学に関する先行研究から、オランダ通詞の活動を中心に蘭和翻訳の歴史的展開を整理した。また、オランダ文学基金およびフランダース文学基金等の協力も得て、日本語に翻訳された文学作品のデータベース化を行なった。

【課題3】翻訳戦略の分析

課題2で作成したデータベースを元に、ポリグロシアを有するテキスト資料を文学作品から抽出した。また、多言語使用を日本語に翻訳する際の戦略について、すでに日本語で単行本として翻訳出版されている作品10点を対象に、テキスト分析・考察を行った。

4. 研究成果

上記3. で述べた各課題について、研究成果を示す。

【課題1】ポリグロシアに関する調査・分析

ポリグロシアの理論や実践に関する先行研究を調査した結果、2010年代以降、現代文学を対象とする研究において多言語主義への関心が高まっていることが明らかとなった。また、ポリグロシアに関連する概念や理論の洗い出しの過程で、Brill社より2023年11月に文学における多言語主義を専門に取り上げる学術雑誌「Journal of Literary Multilingualism」が刊行された。

これは文学研究の分野において、本研究課題のキーワードであるポリグロシアへの関心が高まっていることを示唆しており、これまで各分野で実施されてきた同テーマに関する研究の体系化が期待される。現時点でベルギー・オランダ語文学におけるポリグロシアに焦点を置いた研究は数少ないが、体系化が進むことで、今後、ベルギー・オランダ語圏の文学テキストに見られるポリグロシアへの学術的関心もさらに高まることが予想される。

また、ベルギーの言語事情と文学の関係を探ることを目的に、ベルギー・オランダ語圏の文学作品の中でも特に、現代文学の歴史や地域的特性について事例とともに分析した。本研究では20世紀のベルギー幻想文学を代表するバイリンガル作家、ジャン・レー／ジョン・フランダースを取り上げた。同作家は同じ国内であっても言語によって異なるアイデンティティを確立しており、その影響から、予想に反してフランス語、オランダ語それぞれのテキストにおいて相互の言語の影響はほとんど見られないことを明らかにした。

【課題2】 蘭和翻訳の通時的展開に関する調査

文献調査の結果、オランダ通詞が外交や貿易に関する文書、新聞、そしてオランダ語習得を目的とする翻訳や辞書の編さんをおこなってきたことを確認した。しかし、最初に日本語に翻訳されたオランダ語文学の作品を特定するには至らなかったため、手がかりを得るため、言語の範囲を広げ、西欧文学の日本語翻訳に関する歴史も調査した。さらに、国民文学の観点から「ベルギー文学」（フランス語およびオランダ語）が日本でどのように紹介されてきたのか、19世紀末から20世紀半ばに出版された文学概論をもとに資料収集および分析を行ない、史的展開を整理した。そして、言語・文化・市場・政策という重層的な条件を考慮に入れながら、課題1で得られた知見をもとにオランダ語圏の文学作品の国際流通をめぐる課題について、分析を行った。以上の調査を通じて日本におけるオランダ語文学のプレゼンスの低さの要因や課題を明らかにすることができた。

【課題3】 翻訳ストラテジーの分析

これまで単行本として刊行された日本語訳のある文学作品10点を対象に、オランダ語以外の言語が作品内でどのように使われているのか、それが発現するコンテクスト、またそのテキストが日本語にどのように翻訳されているのかについて分析を行い、翻訳ストラテジーを分類・整理した。ベルギーのオランダ語文学のテキストは、外国語の中ではフランス語の使用が最も頻繁で、そのコンテクストは作品が発表された時代の言語事情や著者の言語観が反映されること、そして日本語の翻訳テキストの分析を通して、単一言語でポリグロシアを再表現するにあたっての課題を明らかにした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 井内千紗	4. 巻 47
2. 論文標題 20世紀ベルギーにおける言語事情とバイリンガル作家ジャン・レーノジョン・フランダースの関係	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 拓殖大学論集(326)人文・自然・人間科学研究	6. 最初と最後の頁 126-141
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 1件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 井内千紗
2. 発表標題 翻訳出版にみるオランダ語文学と日本
3. 学会等名 第92回ベルギー研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 井内千紗
2. 発表標題 オランダ語文芸作品にみるフラーンデレン地域の言語文化的特性
3. 学会等名 第93回ベルギー研究会ブリュッセル大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 井内千紗
2. 発表標題 ベルギー・オランダ語現代小説における言語文化的特性の翻訳をめぐる課題
3. 学会等名 科学研究費助成事業 18H00688主催 国際研究集会2023「複言語主義の多元性をめぐって」、シンポジウム「翻訳と文化的仲介の問題」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 井内千紗
2. 発表標題 フランドレン地域におけるジャン・レーノジョン・フランダース作品の受容と言語
3. 学会等名 ベルギー研究会第88回例会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 岩本 和子、中條 健志、石部 尚登、武居 一正、山口 博史、渡邊 優子、井内 千紗、利根川 由奈、大迫 知佳子、北原 和夫、ベルナルド・カトリッセ、猪俣 紀子、奈良岡 聡智、ディミトリ・ヴァンオーヴェルベーク、上西 秀明、鈴木義孝	4. 発行年 2023年
2. 出版社 松籟社	5. 総ページ数 304
3. 書名 日本とベルギー	

1. 著者名 ジャン・レーノジョン・フランダース、岩本和子、井内千紗、白田由樹、原野葉子、松原冬二	4. 発行年 2021年
2. 出版社 国書刊行会	5. 総ページ数 532
3. 書名 マルベルチュイ	

1. 著者名 西山教行、大山万容、井内千紗他	4. 発行年 2024年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 -
3. 書名 複言語主義の多元性と多様性	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------